

[証券コード6155]

# TAKAMIZ

高松機械工業株式会社

[ 第41期 事業報告書 ]

平成13年4月1日から平成14年3月31日



Q 依然として出口の見えない不況が続いていますが、社長はこの1年の世界的な動向、そしてその中における工作機械業界の流れをどのように分析していらっしゃいますか。

A 第41期の世界の経済動向を振り返ってみますと、ITバブルの崩壊によりアメリカ経済が減速し始めているなか、2001年9月にはアメリカで同時多発テロが発生し、世界同時不況の道を歩み始めました。アメリカ経済が落ち込み始めますと、日本経済の復興は遠くなります。倒産企業が増加し、失業率は5%水準となり、日経平均株価では1万円以下を記録するなど、先行きは不透明でした。



代表取締役社長

高松喜与志

トップに訊く——The President Talks

**お客様第一主義の思想に立ち返り、  
より信頼される企業活動の推進に努めます。**

工作機械業界を見ても、第40期にはIT関連産業の影響もありまして、順調に推移したのですが、第41期に入りますと設備投資が抑制され始め、一転して厳しい環境に陥りました。業界における受注高は、自動車業界の設備投資が堅調でしたので、何とか下支えされたのですが、2001年見込みを1兆500億円としていた日本工作機械工業会では2度も下方修正することとなり、実績は前年比19.1%減の7,889億円という結果で終わりました。

Q そうした深刻な閉塞感を打破すべく、貴社としてどのような事を行ってきたのですか？

A このような時代であるからこそ特に「お客様に稼ぐ機械を提供する」という思想のもと、お客様第一主義を強く実践してきました。

そこで、多様化・複雑化していくお客様の要望に迅速かつ正確に応えるため、また、短納期要求に対応していくために、新たに構想設計課を設け、営業員と連携して活動してきました。

また、9月には生産改革チームを編成しまして、当社が強い分野である自動車業界の大手ユーザーからの非常に複雑化してきた機械仕様の受注の増加に対応するために、受注段階から、よりお客様とのコミュニケーションをとって、高品質の商品を提供するために生産日程を特に管理してきました。

これら活動の結果により、品質や納期といった目に見える部分での改善を達成でき、確かな成果につながったと思います。



無埃・温度管理が徹底された空調管理システムを完備した大空間ワンフロア工場。多様化するニーズに応えた商品群はここから生み出されます。

Q そうした状況を踏まえて、第41期の業績はいかがでしたでしょうか。

A 結果から申し上げますと、第41期の工作機械受注高は73億8百万円(前期比27.3%減)、売上高は97億6百万円(同1.2%減)、そのうち輸出比率は24.4%です。経常利益は2億67百万円(同65.9%減)、当期純利益は1億円(同74.5%減)でした。

これら結果を分析してみると、前の質問で答えたような当社の活動の結果に加えて、前期末の受注残もありましたので、売上高は前年並みを確保できたのですが、業界全体の受注がどんどん減少し

ていったので、シェア争いが過熱し、価格競争へ発展したので、利益が大幅に減少する結果となりました。

また、新規の自動車部品加工では、計画通りの立ち上げを行って、品質・納期を満足させる生産を軌道に乗せることができたのですが、新分野事業におけるIT関連産業機器への参入は、ITバブルの崩壊を受けて当初予定の受注を確保することができず、その後も回復が見られなかったため、成果はあがりませんでした。



整然かつ機能的にレイアウトされた第3工場内の自動車部品加工ライン。自社商品で構成することで、モデル工場としています。

**Q** 第42期に向けての展望を、具体的なキーワードを掲げながらお聞かせ願えますでしょうか。

**A** アメリカ経済が回復し始めていることから、日本経済も連れて景気の底から脱却しつつありますが、設備投資に関してはまだまだ先が見通しにくい状況にあります。日本工作機械工業会では、2002年の受注見通しを前年比10.0%減の7,100億円としています。

そのような状況の中、当社の重点的活動としてあげるキーワードは次の三点です。

#### ①ユーザーズを捉えた新商品の開発

新商品の一つにアジア向け機種「A-WAVE」があります。

アジアでは自動化にするよりも人力で行う方が安く上がるということなので、不要な機能を外して加工のみに特化したことで、アジア諸国と価格競争できる機種となりました。しかも、政府機関であるNEDOとの共同研究の成果の一部を取り入れていますので、従来機種と同等以上の高い加工精度を実現しています。現在はヨーロッパユーザーのニーズに合わせた新機種を開発し、受注に結び付けていきたいと思っています。



アジア市場を主要ターゲットに開発された「A-WAVE」。高品質・世界最小クラスのスペース・短納期で旋風を巻き起こします。

## ②海外における積極的な市場拡大活動

工作機械業界の輸出比率が50%程度であることに比べ、当社の輸出比率はその半分であり、また、最近の自動車関連市場はグローバル化した生産となっていることから、今後は特に海外戦略が重要になると思っています。そこで、専任者をヨーロッパに駐在させたり、現地ディーラーに教育を行うなど、海外のメンテナンス体制の強化拡充を行っています。

また、9月のIMTS(シカゴ)、10月のJIMTOF(東京)など、展示会には積極的に参加していきます。

アジア・ヨーロッパではそれぞれの新機種を投入し、北米ではオープンハウスを開催するなど、地域密着型の営業活動を展開していきます。

## ③原価低減活動

第41期の価格競争の激化によって利益が低減した結果を踏まえて、原価管理係を新設し、コスト低減をはかるとともに、技術部を生産本部に含めることで、全社的な生産管理体制を強化しました。

また、経費低減活動も推進することで、利益を確保するつもりです。

これらの活動を通して、第42期は売上高100億97百万円、経常利益6億80百万円、当期純利益2億66百万円を見込んでおります。

Q それでは最後に、株主の皆様へ一言お願いします。

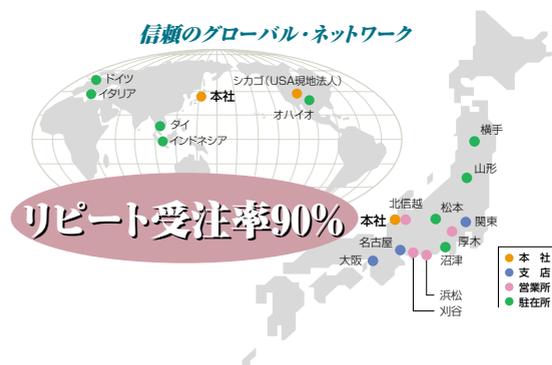
A 今後も当社の主力である工作機械業界を中心として、自動車部品加工・新分野事業とともに、安定受注・安定生産によって利益を確保していきますので、ご協力・ご理解いただけますようお願いいたします。

# 当社の特長

strong points of our company

## 優れたサービス・提案力

- ★営業員すべてがセールスエンジニアであり、お客様に「提案型営業」を展開
- ★技術アドバイザー制度を導入して、「ユーザ密着型営業」を展開



すべての営業員がセールスエンジニアですので、お客様にベストな提案を提供できることが、当社の大きな強みです。当社では、切削事例や自動化事例といった過去の実績をデータベースとして蓄積しており、このデータをいつでもどこでも営業員が引き出せる、当社独自の通信ネットワークを構築しています。これによってお客様からの要望に迅速に対応できるほか、情報を共有化することを可能にしています。このようにユーザ密着型の提案型営業を行っていることがお客様の信頼を得て、リポート受注率90%という高い数字につながっています。

## 進んだ自動化装置

- ★長年の豊富なノウハウを集約した自動化商品群・自動化技術が優れたコストパフォーマンスを実現、お客様に最適なソリューションを提案
- ★設計から立ち上げまで一貫した生産体制を構築



ユーザの自動化・省人化へのニーズがますます高まっていくなかで、当社は自社製品のNC旋盤にロボット、ローダー、計測装置、洗浄装置、ストッカーなどを付加し、さらに生産システム、生産技術をも同時に販売・提供しています。これらの自動化システムは、過去にある多くの実績のもとに豊富なノウハウを蓄積しているため、他社と比較しても、機能、性能及び価格競争力に優れています。また、カスタマイズ性に優れた標準化された商品群を取り揃えていますので、設計から立ち上げに至るまで一貫した生産体制によるトータルサポートを実現しています。

これらをお客様第一主義に基づいて、お客様と共に、さまざまなニーズに合わせた最適な自動化システムを構築していくことが当社のスタンスです。

## ◎平成14年度全国ディーラ会議

平成14年4月23日(火)に当社研修室にて全国ディーラ会議を開催し、今年は初参加の1社を含む25社のディーラ様に参加していただきました。当社工場展示場にて「A-WAVE」を含む新商品及び新鋭の機種を熱心に見学されたり、その後の会議では新商品や当社についての質問や意見・要望を多数出されて、非常に熱気に満ちた会議となるなど、ディーラ様の当社に対する期待の高さをうかがい知ることができました。

ディーラ様から出された意見は、お客様の立場に近い意見ですので、真摯に受け止めて対応していくことで、お客様の満足度をさらに高め、今後の当社の成長へとつなげていきたいと思っています。



## ◎EMO SHOW(ドイツ)出展

平成13年9月、ドイツ・ハノーバー市で、世界最大規模の工作機械見本市「EMO SHOW」が開催され、当社は、海外では過去最高の小間数に新機種「XY-2000 Mighty」をはじめ4台の新鋭機を出展いたしました。準備万端順調な人出で盛り上がりかけた時に、あのアメリカ同時多発テロ事件が勃発、大きな衝撃を受けた記憶が蘇ります。アメリカから来場を予定されていた方々が全てキャンセルとなり、残りの集客にも不安がよぎりましたが、幸いにも地元ディーラ様の奮闘で、10億近い引合をいただく事ができました。



## ◎<http://www.takamaz.co.jp/>

平成14年3月に発表された「インターネットIR(投資家向け広報サイト)の優秀企業135社」に当社が選ばれました。これは大和インベスター・リレーションズ株式会社が実施しており、今回は、平成14年1月末時点の主な上場会社、店頭上場会社586社のIRサイトが対象となっております。

当社ホームページは、平成13年9月に全面リニューアルを行ったのですが、今回その結果が評価されたことを大変光栄であると思っています。今後も、最新の情報を発信していきますので、ぜひご覧いただけますようお願いいたします。



# 連結業績推移

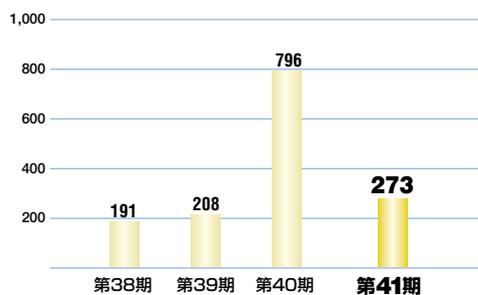
●連結売上高 (単位:百万円)



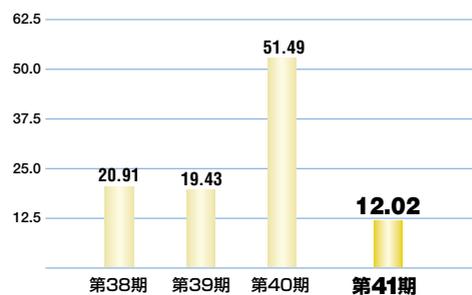
●連結総資産 (単位:百万円)



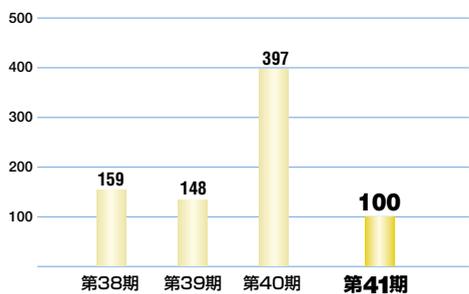
●連結経常利益 (単位:百万円)



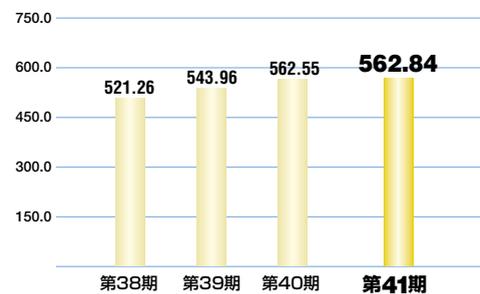
●1株当たり当期純利益 (単位:円)



●連結当期純利益 (単位:百万円)



●1株当たり純資産額 (単位:円)



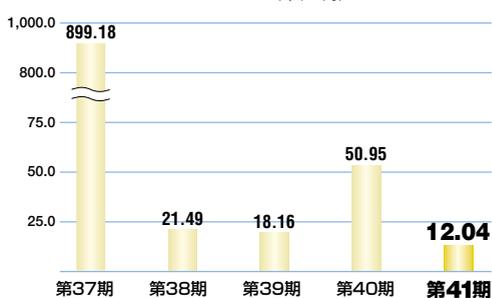
(注)第37期以前は連結財務諸表を作成していません。

# 単独業績推移

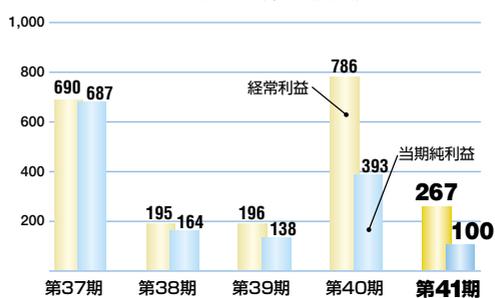
●売上高 (単位:百万円)



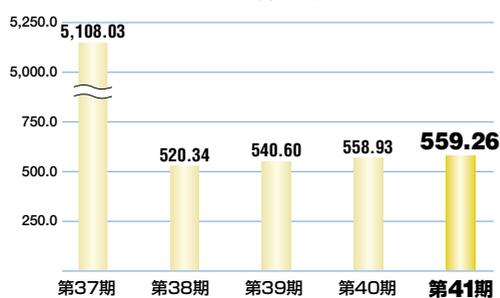
●1株当たり当期純利益 (単位:円)



●経常利益/当期純利益 (単位:百万円)



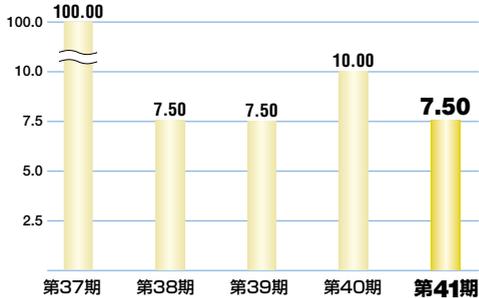
●1株当たり純資産額 (単位:円)



●総資産 (単位:百万円)



●1株当たり配当額 (単位:円)



(注)平成10年8月1日付をもって、券面額500円株式1株を券面額50円株式10株に分割しております。そのため、第38期における1株当たり当期純利益は、期首に株式分割が行われたものとして算出しております。  
 第37期の1株当たり配当額には、創業50周年記念配当25円を含んでおります。  
 第40期の1株当たり配当額には、店頭上場記念配当2円50銭を含んでおります。

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位：千円)

科目	当連結会計年度 (平成14年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成13年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>		
<b>流動資産</b>	<b>6,118,705</b>	<b>7,180,721</b>
現金及び預金	1,218,598	1,475,860
受取手形及び売掛金	3,139,810	3,580,152
割賦売掛金	27,280	43,188
営業貸付金	21,822	42,870
たな卸資産	1,485,807	1,791,083
未取消費税等	1,233	9,200
繰延税金資産	185,053	222,448
その他の流動資産	70,817	55,429
貸倒引当金	△ 31,720	△ 39,512
<b>固定資産</b>	<b>3,764,817</b>	<b>3,527,688</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>(3,359,795)</b>	<b>(3,121,951)</b>
賃貸資産		
リース資産	103,628	172,664
社用資産		
建物及び構築物	614,731	668,049
機械装置及び運搬具	896,743	410,700
工具器具及び備品	140,591	166,140
土地	1,604,099	1,604,099
建設仮勘定	-	100,297
<b>無形固定資産</b>	<b>(2,554)</b>	<b>(3,229)</b>
電話加入権	2,554	3,229
<b>投資その他の資産</b>	<b>(402,467)</b>	<b>(402,507)</b>
投資有価証券	192,248	175,763
保険積立金	167,335	155,688
その他の投資その他の資産	141,684	109,489
貸倒引当金	△ 98,800	△ 38,434
<b>資産合計</b>	<b>9,883,522</b>	<b>10,708,410</b>

(単位：千円)

科目	当連結会計年度 (平成14年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成13年3月31日現在)
<b>(負債の部)</b>		
<b>流動負債</b>	<b>4,719,577</b>	<b>5,570,237</b>
支払手形及び買掛金	2,613,232	3,418,291
短期借入金	1,579,520	1,431,520
未払法人税等	36,263	381,345
未払消費税等	57,913	2,684
製品保証引当金	21,339	12,336
賞与引当金	73,469	102,962
その他の流動負債	337,839	221,098
<b>固定負債</b>	<b>464,155</b>	<b>440,919</b>
長期借入金	108,440	260,960
繰延税金負債	14,900	39,689
退職給付引当金	206,958	140,229
長期未払金	133,815	-
その他の固定負債	41	41
<b>負債合計</b>	<b>5,183,733</b>	<b>6,011,157</b>
<b>(資本の部)</b>		
<b>資本金</b>	<b>1,247,395</b>	<b>1,247,395</b>
<b>資本準備金</b>	<b>1,190,355</b>	<b>1,190,355</b>
<b>連結剰余金</b>	<b>2,241,191</b>	<b>2,244,246</b>
<b>その他有価証券評価差額金</b>	<b>20,847</b>	<b>15,257</b>
<b>資本合計</b>	<b>4,699,789</b>	<b>4,697,253</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>9,883,522</b>	<b>10,708,410</b>

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	当連結会計年度 自平成13年4月1日 至平成14年3月31日		前連結会計年度 自平成12年4月1日 至平成13年3月31日	
売上高	9,814,412	10,011,489		
売上原価	7,808,376	7,568,289		
売上総利益	2,006,035	2,443,199		
販管費及び一般管理費	1,732,936	1,620,248		
営業利益	273,099	822,951		
営業外収益	35,861	37,228		
受取利息	3,061	5,437		
受取配当金	3,060	2,208		
受取保険金	6,666	10,827		
為替差益	6,201	7,091		
雑収入	16,872	11,663		
営業外費用	35,372	64,046		
支払利息	21,769	35,604		
手形売却損	13,552	13,741		
新株発行費	-	9,467		
雑損失	51	5,234		
経常利益	273,588	796,133		
特別利益	-	3,805		
投資有価証券売却益	-	2,318		
固定資産売却益	-	156		
貸倒引当金戻入額	-	1,331		
特別損失	57,870	77,388		
固定資産売却損	5,016	3,799		
固定資産除却損	7,258	18,239		
役員退職慰労金	800	-		
投資有価証券売却損	133	433		
貸倒損失	-	3,500		
子会社整理損	-	2,406		
子会社株式評価損	-	4,348		
退職給付会計基準変更時差異	44,661	44,661		
税金等調整前当期純利益	215,717	722,550		
法人税、住民税及び事業税	106,533	385,134		
法人税等調整額	8,738	△ 60,332		
当期純利益	100,445	397,748		

## 連結剰余金計算書

(単位：千円)

科 目	当連結会計年度 自平成13年4月1日 至平成14年3月31日		前連結会計年度 自平成12年4月1日 至平成13年3月31日	
連結剰余金期首残高	2,244,246	1,918,873		
連結剰余金減少高	103,500	72,375		
配当金	83,500	57,375		
役員賞与	20,000	15,000		
(うち監査役賞与)	(1,500)	(1,100)		
当期純利益	100,445	397,748		
連結剰余金期末残高	2,241,191	2,244,246		

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	当連結会計年度 自平成13年4月1日 至平成14年3月31日		前連結会計年度 自平成12年4月1日 至平成13年3月31日	
営業活動によるキャッシュ・フロー	320,315	1,620,130		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△471,973	29,237		
財務活動によるキャッシュ・フロー	79,674	△1,635,960		
現金及び現金同等物に係る換算差額	△30	△296		
現金及び現金同等物の増加額	-	13,110		
現金及び現金同等物の減少額	△72,014	-		
現金及び現金同等物の期首残高	173,181	160,071		
現金及び現金同等物の期末残高	101,167	173,181		

# 単独財務諸表

## 貸借対照表

(単位：千円)

科目	第41期 (平成14年3月31日現在)	第40期 (平成13年3月31日現在)
(資産の部)		
<b>流動資産</b>	<b>6,013,515</b>	<b>6,999,581</b>
現金及び預金	1,183,949	1,405,258
受取手形	1,350,964	1,350,804
売掛金	1,776,991	2,221,774
製品	180,055	323,506
原材料	748,368	771,365
仕掛品	527,052	663,651
貯蔵品	31,225	35,632
前渡金	22,094	4,652
前払費用	17,788	22,344
繰延税金資産	182,226	218,708
その他の流動資産	24,119	20,685
貸倒引当金	△ 31,320	△ 38,803
<b>固定資産</b>	<b>3,674,572</b>	<b>3,343,488</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>(3,219,774)</b>	<b>(2,898,175)</b>
建物	595,152	644,213
構築物	19,579	23,835
機械及び装置	863,435	375,548
車両及び運搬具	11,307	11,426
工具器具及び備品	126,199	138,755
土地	1,604,099	1,604,099
建設仮勘定	-	100,297
<b>無形固定資産</b>	<b>(2,330)</b>	<b>(3,005)</b>
電話加入権	2,330	3,005
<b>投資その他の資産</b>	<b>(452,467)</b>	<b>(442,306)</b>
投資有価証券	192,248	173,556
関係会社株式	50,000	50,000
出資金	5,380	5,380
破産更生債権等	82,999	52,958
保険積立金	167,335	155,688
その他の投資その他の資産	36,691	35,166
貸倒引当金	△ 82,187	△ 30,444
<b>資産合計</b>	<b>9,688,087</b>	<b>10,343,070</b>

(単位：千円)

科目	第41期 (平成14年3月31日現在)	第40期 (平成13年3月31日現在)
(負債の部)		
<b>流動負債</b>	<b>4,554,245</b>	<b>5,335,505</b>
支払手形	2,253,788	2,688,203
買掛金	565,417	847,309
短期借入金	1,200,000	830,000
1年以内返済予定の長期借入金	219,520	375,520
未払金	61,281	37,467
未払費用	42,575	41,458
未払法人税等	36,263	377,477
未払消費税等	57,913	-
賞与引当金	73,239	102,562
製品保証引当金	21,339	12,336
その他の流動負債	22,905	23,170
<b>固定負債</b>	<b>463,992</b>	<b>340,506</b>
長期借入金	108,440	160,960
繰延税金負債	14,737	39,275
退職給付引当金	206,958	140,229
長期未払金	133,815	-
長期預り金	41	41
<b>負債合計</b>	<b>5,018,237</b>	<b>5,676,011</b>

### (資本の部)

<b>資本金</b>	<b>1,247,395</b>	<b>1,247,395</b>
<b>資本準備金</b>	<b>1,190,355</b>	<b>1,190,355</b>
<b>利益準備金</b>	<b>95,608</b>	<b>85,258</b>
<b>その他の剰余金</b>	<b>2,115,870</b>	<b>2,129,176</b>
任意積立金	1,888,006	1,588,193
当期末処分利益	227,863	540,982
<b>その他有価証券評価差額金</b>	<b>20,620</b>	<b>14,873</b>
<b>資本合計</b>	<b>4,669,849</b>	<b>4,667,058</b>
<b>負債資本合計</b>	<b>9,688,087</b>	<b>10,343,070</b>

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

## 損益計算書

(単位：千円)

科目	第41期	第40期
	自平成13年4月1日 至平成14年3月31日	自平成12年4月1日 至平成13年3月31日
売上高	9,706,235	9,828,167
売上原価	7,708,574	7,403,007
売上総利益	1,997,661	2,425,160
販売費及び一般管理費	1,732,034	1,617,233
営業利益	265,627	807,926
営業外収益	36,219	39,589
受取利息	2,848	4,675
受取配当金	3,060	2,208
受取保険金	6,666	10,827
受取賃貸料	3,064	4,066
人材高度化給付金	-	2,279
為替差益	6,201	7,091
その他営業外収益	14,377	8,440
営業外費用	33,910	60,751
支払利息	20,306	32,734
手形売却損	13,552	13,741
新株発行費	-	9,467
その他営業外費用	51	4,809
経常利益	267,936	786,764
特別利益	-	156
固定資産売却益	-	156
特別損失	57,025	76,005
固定資産売却損	5,016	3,799
固定資産除却損	7,258	17,290
投資有価証券売却損	88	-
貸倒損失	-	3,500
子会社整理損	-	2,406
子会社株式評価損	-	4,348
退職給付会計基準変更時差異	44,661	44,661
税引前当期純利益	210,911	710,915
法人税、住民税及び事業税	102,541	380,843
法人税等調整額	7,826	△ 63,552
当期純利益	100,543	393,623
前期繰越利益	127,320	147,359
当期末処分利益	227,863	540,982

## 利益処分

(単位：円)

科目	第41期	第40期
当期末処分利益	227,863,975	540,982,981
固定資産圧縮積立金取崩額	173,607	187,077
計	228,037,582	541,170,058
上記金額を次のとおり処分いたします。		
利益準備金	-	10,350,000
配当金	62,625,000 (1株につき7円50銭)	83,500,000 (1株につき10円 (普通配当7円50銭) (優先株配当2円50銭))
役員賞与金	10,000,000 (監査役分 650,000円含む)	20,000,000 (監査役分 1,500,000円含む)
別途積立金	30,000,000	300,000,000
次期繰越利益	125,412,582	127,320,058

(注)固定資産圧縮積立金の取崩額は租税特別措置法の規定に基づくものであります。

## 利益処分の基本方針

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しておりますので、強固な経営体制の確立と株主資本利益率の向上に努めることで、安定的な配当の継続と配当水準を向上させることを基本方針としております。

このような方針に基づき、当期につきましては、1株当たり7円50銭（年間配当金7円50銭）の配当とさせていただきます。

内部留保金につきましては、業界における競争激化に耐えうる企業体質の一層の強化並びに将来の事業構造の変化に備えることを基本方針としております。

# 株式の状況 (平成14年3月31日現在)

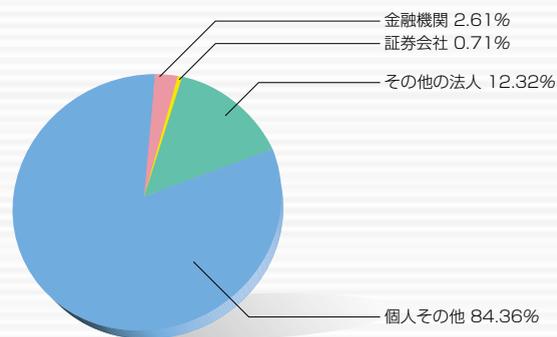
## 株式の状況

- ①会社が発行する株式の総数 ……………18,000,000株
- ②発行済株式総数 ……………8,350,000株
- ③株主数 ……………422名

## 大株主

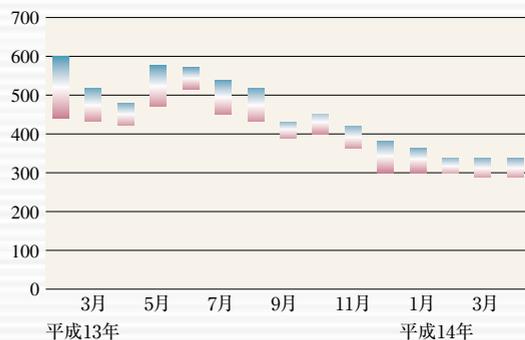
株主名	当社への出資状況	
	所有株式数 (千株)	持株比率 (%)
高松喜与志	869	10.41
川江豊吉	551	6.60
高松機械工業社員持株会	470	5.63
名古屋中小企業投資育成株式会社	416	4.99
日本生命保険相互会社	400	4.79
北国総合リース株式会社	361	4.32
株式会社北国銀行	340	4.07
三井住友海上火災保険株式会社	340	4.07
高松邦	331	3.97
明治生命保険相互会社	300	3.59

## 株式の分布状況 (所有者別)

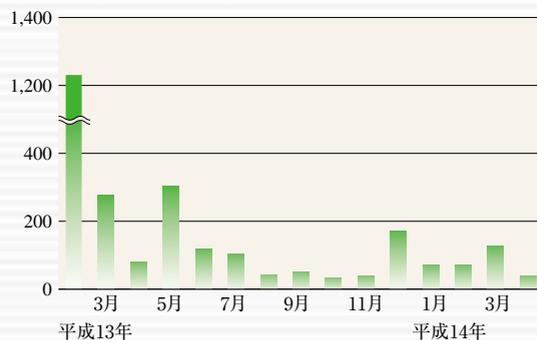


## 株価インフォメーション

株価の推移 (円)



出来高の推移 (千株・月間合計)





## 株主メモ

決算期日	3月31日
定時株主総会	6月中
株主確定基準日	(1)定時株主総会 3月31日 (2)利益配当金 3月31日 (3)その他必要ある時 あらかじめ公告して定めた日
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社証券代行部
(郵便物送付先) 電話照会先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社証券代行部 ☎0120-175-417 (住所変更等用紙のご請求) 自動音声認識装置による24時間対応 ☎0120-176-417 (その他のご照会)
同 取次所	住友信託銀行株式会社全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞
お問い合わせ先	管理部 TEL 076-274-1411〈直通〉 FAX 076-274-1418



**TAKAMAZ**  
高松機械工業株式会社